

○境楠

境楠は宮川堤上にある老楠で、周囲目通り二丈七尺余（8.18m余）、地上八九尺（2.42～2.73m）の所より三枝に分れている。いつの頃か北家の支配たる中島町と、榎倉家の支配たる中川原町との境界の標として植えられたことの名である。然るに楠の若枝を逆さまに植えたのが今の状態になったので、本来は逆楠さかぐすと言うのだと俗説もあるが、これはさかいぐすのいを省略した所より生じた伝説であろう。ある時この樹より白蛇が現れて、京町の八幡祠に遷ったとの伝説もあつて、蛇楠じゃぐすとも唱えられる。又この楠を古くより楠さんと称し、注連縄を張り鳥居を立て、何病でも祈れば験ありとて参詣者が多くある。

【出典】宇治山田市役所『宇治山田市史』（昭和4／1929年）

上巻 827頁

※原文を常用漢字、現代仮名遣い等に改めてあります。